



# わかば

2020. 10. 24  
(令和2年) 第20-26号

文責 校長 保谷 力

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

**教育目標** 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

**重点目標** 一人一人の笑顔輝く学校づくり～期待登校・満足下校～

校長 保谷 力

10月に入り、ポートランド日本人学校では個人面談を実施しています。コロナ禍でない通常時であれば、これまでの評価をもとにお子様の学力についてお話できるのですが、今回はご家庭でのお子様の様子を中心に、保護者の皆様からのお話を聞く機会として行いました。お話の中には「子供が楽しみにしている。」「新時間割がとても良い。」「昨年不登校気味であったが、オンラインになって続けられている。」など、これまでのオンライン授業の良い点もあげられておりました。しかし、「学校があればテスト勉強はしていたが、オンライン授業だと甘さが出てしまい、どうしても宿題が残ってしまう。」「漢字練習のモチベーションを上げるためにもテストを実施してほしい。」「テストがないので、理解できているのか不安」などの声も学年を問わず多くの保護者からあがっていることが分かりました。学校としても、緊急対策として進めてきたオンライン授業でしたが、たとえ厳正な評価は難しいにせよ、子供たちの学習に対するモチベーションを上げるために、何らかの方法を考えていく必要があると感じているところです。また、6年生の保護者からは、「卒業式を行ってほしい。」という切実な話題も出されておりました。学校としても卒業式については、何らかの形で行いたいと考えております。貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。

さて、今日は中学、高校の「数学」の授業を参観いたしました。中2は「証明」の単元、そして高1は「命題と集合」の単元です。どちらも、数学的な思考力というよりも、国語的な論理的思考力の要求される単元で、生徒にとっては、好き嫌いのはっきり分かれる単元だと思います。単元の性格上、どうしても説明が多くなり「聞く」授業になりがちです。しかし、先生方は一つ一つを決して急がず、ゆっくりと確認しながら進んでゆく様子が見られました。両学年に共通することは、子供たちについていけないという不安が見受けられなかったことです。また、皆の前で質問することが苦手な生徒のために、高等部では常に先生と生徒のチャットが可能になっており、教師は、その言葉を拾いながら授業の理解を確認しているように思いました。中学、高校の数学は、大変懐かしい思いで参観いたしました。指導者の教科に対する思いや願いが、生徒の興味・関心に大きく影響していることを改めて感じました。

1年生の国語、中川李枝子さんの「くじらぐも」の勉強からです。体育の時間に空を見上げると大きな雲が流れてきました。1年2組のみんなで、「1, 2, 3!」と声を合わせくじらぐもに飛びのるお話です。子供の想像力を掻き立てる素敵なお話です。

